

# スポーツボランティア実態調査

～ K S V B 会員の意識及び活動状況について ～

生涯スポーツ推進室 米山 教子

## 【テーマ設定の理由】

スポーツの多様化とともに総合型地域スポーツクラブの育成など、スポーツにおける新しい組織化が進む今日、プレイヤーとして「する」スポーツのみでなく、「みる」スポーツの他、クラブや競技団体、イベントの運営やサポートなど、「ささえる」スポーツの重要性が認識されるようになってきている。

このようなスポーツへの関わりについては、従来は、過去にそのスポーツをプレーしていたというようにスポーツへの関わりの深い人々が携わっている状況がほとんどであったが、最近ではこれまでスポーツに関わりの浅い人々も「スポーツボランティア」として地域のクラブ・団体やイベントの運営等を支援する場面が多く見受けられるようになり、新たなスポーツ参加の形態として確立されつつある。

このスポーツボランティアには、地域におけるスポーツクラブや団体の活動を指導者や運営スタッフとして日常的にサポートする活動と、スポーツ大会などの運営をサポートする非日常的な活動とに大別される。<sup>1)</sup> 今日、地域で活動するスポーツクラブ等の役員やスポーツイベントにおける運営スタッフといったマンパワーが慢性的に不足している状況にあり、地域ではごく限られた数のスタッフ（体育指導委員や体育振興会役員など）でまかなわれているといった実情がある。

このような状況の中、ボランティアのマンパワーは、地域での展開が期待されている総合型地域スポーツクラブや市民が運営・参加するスポーツイベント、大会、スポーツ教室等において、その活躍が組織の存続やイベント等の継続の鍵となることが予想される。

従って、今後のスポーツ振興の成否を握る一つのキーパーソンになるスポーツボランティアの意識及び活動状況について把握することは、今後のスポーツ振興を図るうえで重要になると考えられる。

そこで、本研究では、スポーツ活動を組織的にサポートするボランティア団体として、平成10年の「かながわ・ゆめ国体」開催を契機に組織された「かながわスポーツボランティアバンク」（以下「K S V B」という。）の会員に対し、その意識や活動状況を調査し、活動への参加や継続に影響を及ぼす要因などを分析することにより、今後のスポーツボランティア活用方策に資することを目的にテーマを設定した。

## 【目的】

今後のより効果的なボランティア活用方策に資するため、その基礎資料を得ることを目的とする。

かながわスポーツボランティアバンク（KSVB）は、「かながわゆめ国体」（平成10年）開催時に国体の運営補助として国体局が募集し、編成した。国体終了後は、県教育庁スポーツ課が事務局を務め、スポーツ活動の支援と、生涯スポーツの振興に寄与することを目的に再編成され、活動を継続した。

平成15年4月より「かながわスポーツボランティアバンク」として、自主運営を始めている。

## 【内容及び方法】

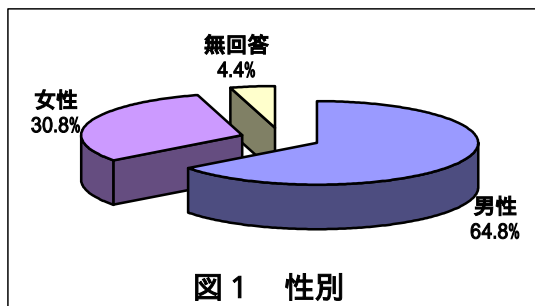
- 1 研究内容
  - (1) 活動の実態
  - (2) 会員の意識
  - (3) 今後の活用方法等の課題
- 2 研究方法
  - (1) 文献研究

- ( 2 ) 資料収集
- ( 3 ) 聞き取り調査 ( 予備調査 )
- ( 4 ) 質問紙法によるアンケート調査
- 3 研究期間
  - 平成 17 年 4 月から平成 18 年 3 月まで
- 4 研究対象
  - 平成 17 年度「かながわスポーツボランティアバンク ( K S V B ) 会員」257 名
  - 回答数 182 名 ( 回収率 71% ) 本文中の図及び表については、n = 182 である。
- 5 調査概要
  - ( 1 ) 事前聞き取り調査 アンケート作成のための事前調査
    - アンケート作成のために意見を収集する。( 7 月 31 日実施 )
  - ( 2 ) アンケートによる意識・実態調査
    - ・性別・年齢・職業
    - ・活動実績 ( 頻度・時間・活動内容等 )
    - ・活動意識、その他
  - ( 3 ) 結果及び考察

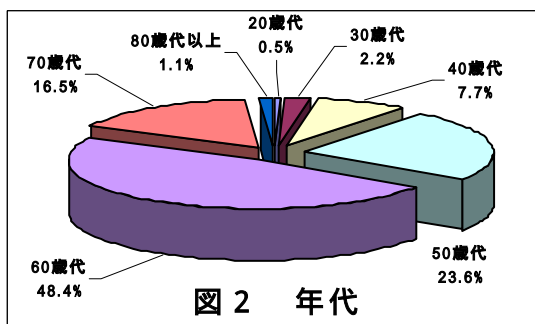
【結果及び考察】

1 K S V B 会員の属性について

( 1 ) 性別・年齢層について

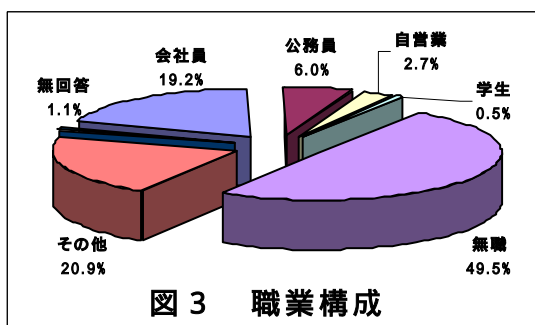


会員の性別は、男性が全体の 64.8%、女性が 30.8%であった。( 図 1 )



会員の年代は、「60 歳代」が 48.4%と全体の半数近くを占めており、「50 歳代」から「70 歳代」までを合計すると、88.5%と全体の 9 割近くを占めている。( 図 2 )

( 2 ) 職業について



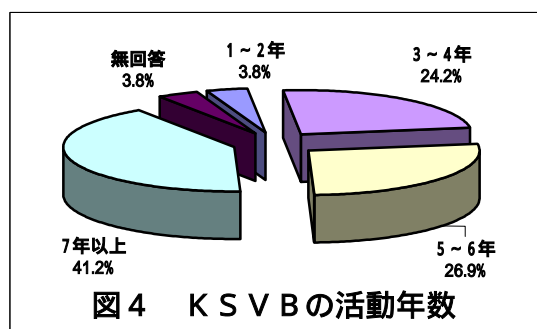
会員の職業は、「無職」が 49.5%と一番多く、続いて「その他」が 20.9%、「会社員」が 19.2%であった。( 図 3 )

K S V B 会員の属性の調査を、平成 12 年 3 月に行われた「かながわ・ゆめ国体のボランティア活動に関する調査報告書」（以下「ゆめ国体時の調査」という。）と比較したところ、ゆめ国体時の調査の性別については、男性 48.9%、女性 50.7%であり、本調査と比較すると男女比において、約 20%という大幅に男性が増、女性が減という変化が見られた。

年代については、ゆめ国体時の調査では 60 歳代が 25.1%と最も多く、続いて 50 歳代 23.6%、40 歳代 17.5%、20 歳代 13.3%の順となり、本調査と比較すると 20 歳代から 40 歳代が多い傾向が見られ、現在では会員の年齢層が高齢化していることがわかった。また、年齢層の調査結果の 60 歳代以上が 66.0%以上を占めていることと併せて、定年退職後の会員が多いことが推測できる。

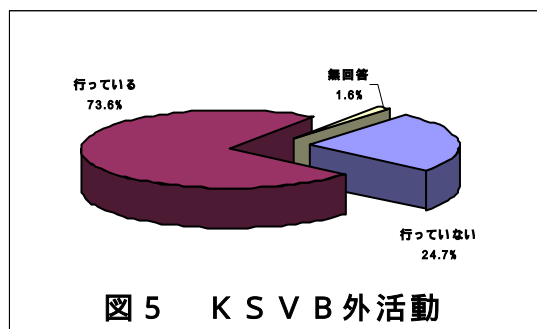
## 2 ボランティア活動経験

### (1) ボランティア（K S V B）の活動年数について

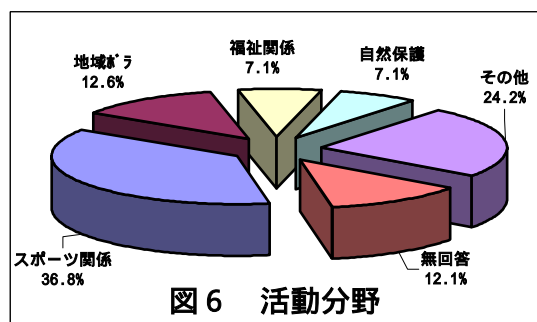


ボランティア（K S V B）の活動年数は、7 年以上活動している会員が全体の 41.2%と最も多く、続いて 5 ~ 6 年が 26.9%であった。また、比較的最近加入した活動歴 1 ~ 2 年の会員は 3.8%であった。（図 4）

### (2) K S V B 以外のボランティアの活動について



K S V B から情報提供された活動以外のボランティア活動の有無については、全体の 73.6%が K S V B 以外のボランティア活動を行っていると回答した。（図 5）



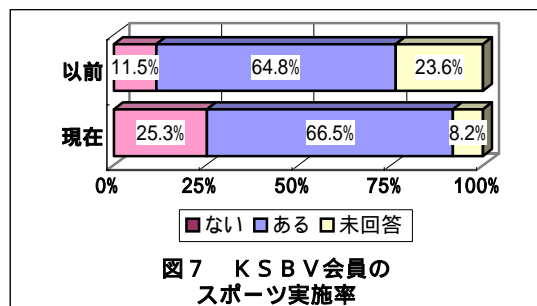
K S V B 以外のボランティア活動の内容は、「スポーツのボランティア」が 36.8%、「地域のボランティア」が 12.6%、「福祉関係のボランティア」7.1%、「自然保護ボランティア」7.1%という結果であった。（図 6）

ボランティアの活動経験の調査結果より国体時、また国体終了後間もなく加入し、現在まで活動を続けている会員が約 7 割と大多数を占め、1 ~ 2 年の比較的新しく加入した会員が少ないという結果であった。また、K S V B の会員の約 3 / 4 が K S V B 以外のボランティア活動にも参加し、その内容はスポーツ関係のボランティア活動が多いものの、スポーツ以外の活動にも積極

的に参加している様子が伺える。

### 3 スポーツとのかかわり

#### スポーツ実施率

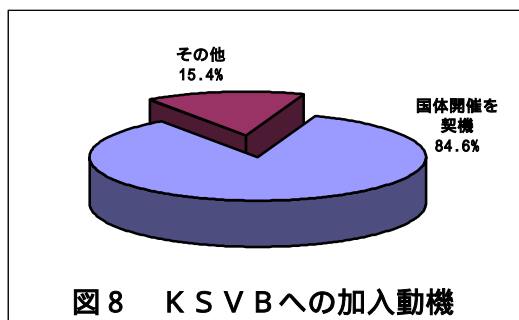


KSVB会員の現在のスポーツ実施率は、「行っている」会員が66.5%、「行っていない」会員が25.3%であった。(図7)

KSVB会員のスポーツ実施率は約7割であった。また、過去のスポーツ経験の有無を併せて調査したところ、スポーツ経験のある会員は、64.8%であり、現在のスポーツ実施者とほぼ同じ値を示している。今回の調査では、会員のスポーツ実施率とKSVBへの加入や、スポーツ活動へのボランティアの関わりによって、本人のスポーツ実施に影響があるという変化は見とれなかった。

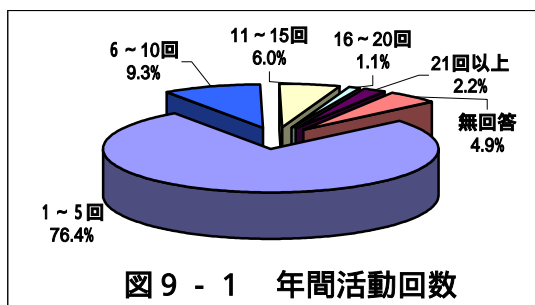
### 4 KSVBの活動について

#### (1) 加入した主なきっかけ

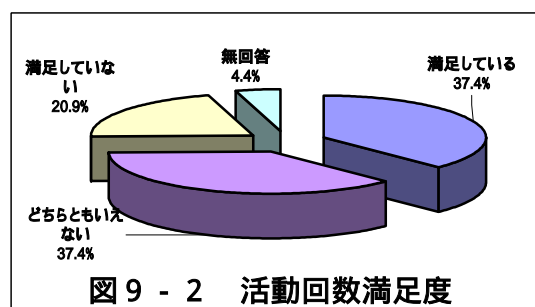


加入した動機は、「国体開催を契機として」が84.6%であり、その他が15.4%であった。(図8)

#### (2) 年間活動回数

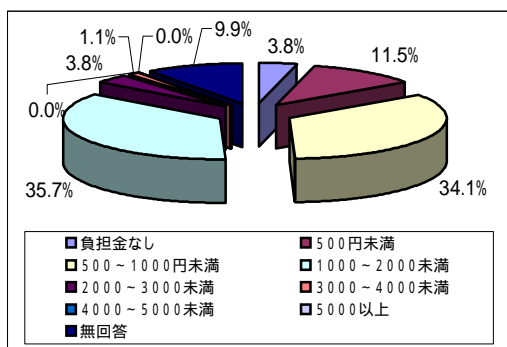


一年間に何回くらいKSVBから紹介されたボランティア活動を行っているかについては、「1~5回」が全体の76.4%を占め、以下「6~10回」が9.3%、「11~15回」が6.0%であった。(図9-1)

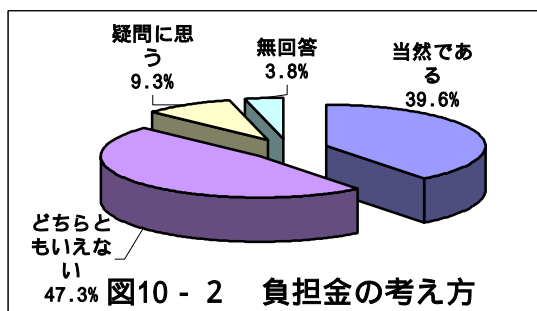


KSVBからの紹介による年間の活動回数に対する満足度は、「満足している」が37.4%、「満足していない」が20.9%であった。(図9-2)

### ( 3 ) ボランティア活動の金銭的負担



K S V B の紹介によるボランティア活動に参加するにあたって参加一回あたりの自己負担金は、平均負担額では「1000 円以上 2000 円未満」が 35.7%、次いで「500 円以上 1000 円未満」が 34.1% であった。( 図 10 - 1 )

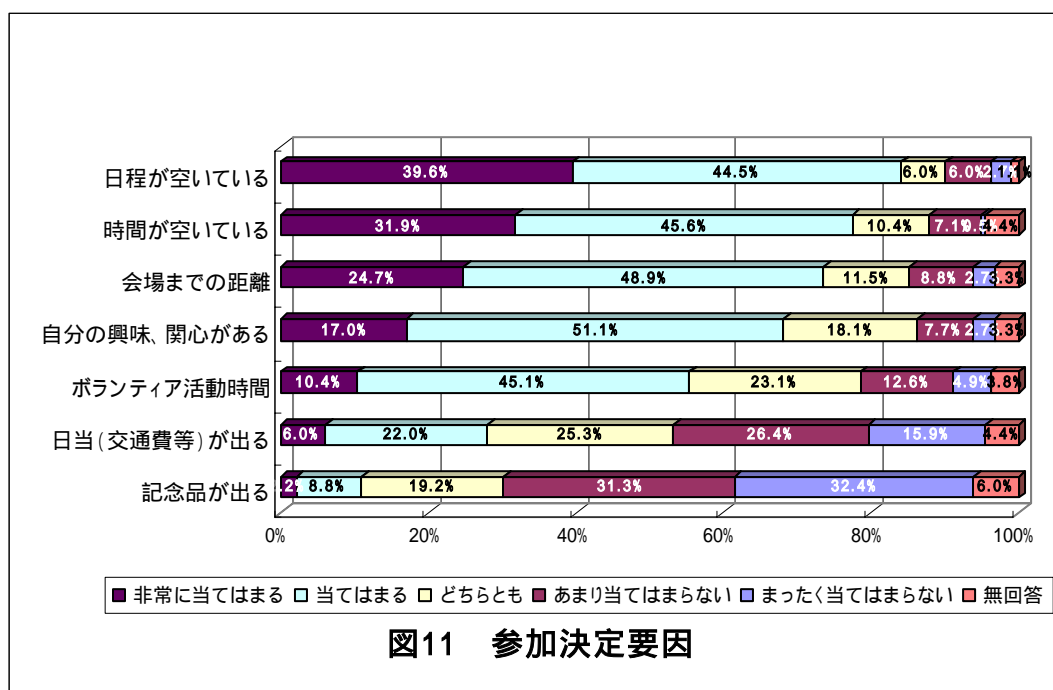


ボランティア活動を行うために自己負担金を支払うことについては、「どちらともいえない」が 47.3%、「当然である」が 39.6%、「疑問である」が 9.3% であった。( 図 10 - 2 )

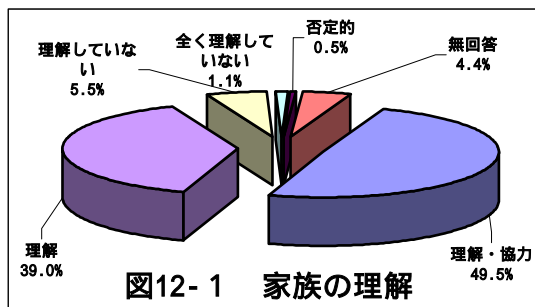
### ( 4 ) 参加決定要因について

K S V B から紹介されたボランティアの活動への参加決定要因について、「非常に当てはまる」「当てはまる」の回答が多かったのは、「日程が空いている」84.1%、「時間が空いている」77.5%、「会場までの距離」73.6%といった個人的要因であった。

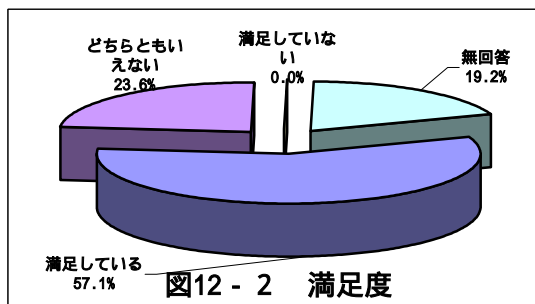
また、少なかったのは「記念品が出る」11.0%、「日当(交通費等)が出る」28.0%であった。( 図 11 )



( 5 ) 家族の理解について

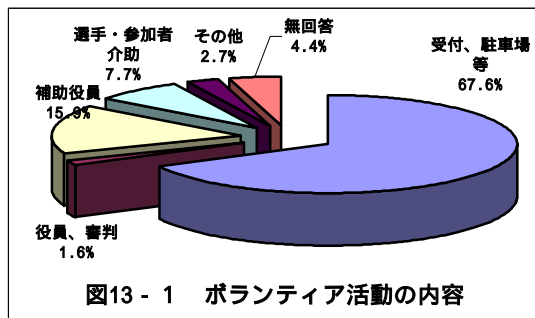


KSVB会員の家族等が会員の活動に対してどのように思っているかについては、「自分を十分理解して、協力してくれる」が全体の49.5%、「理解をしているが協力するほどではない」が39.0%であり、合計して88.5%がKSVBの活動に理解している。(図12-1)

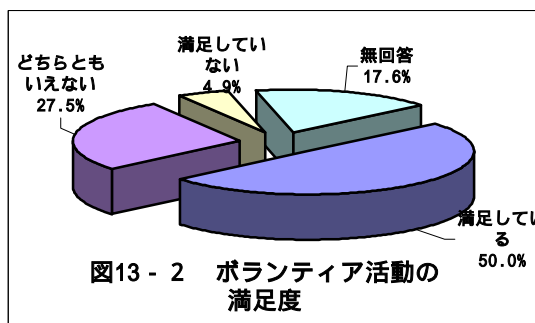


KSVB会員の家族の理解に対する満足度については、全体の57.1%の会員が「満足」しているという結果であった。(図12-2)

( 6 ) 活動について



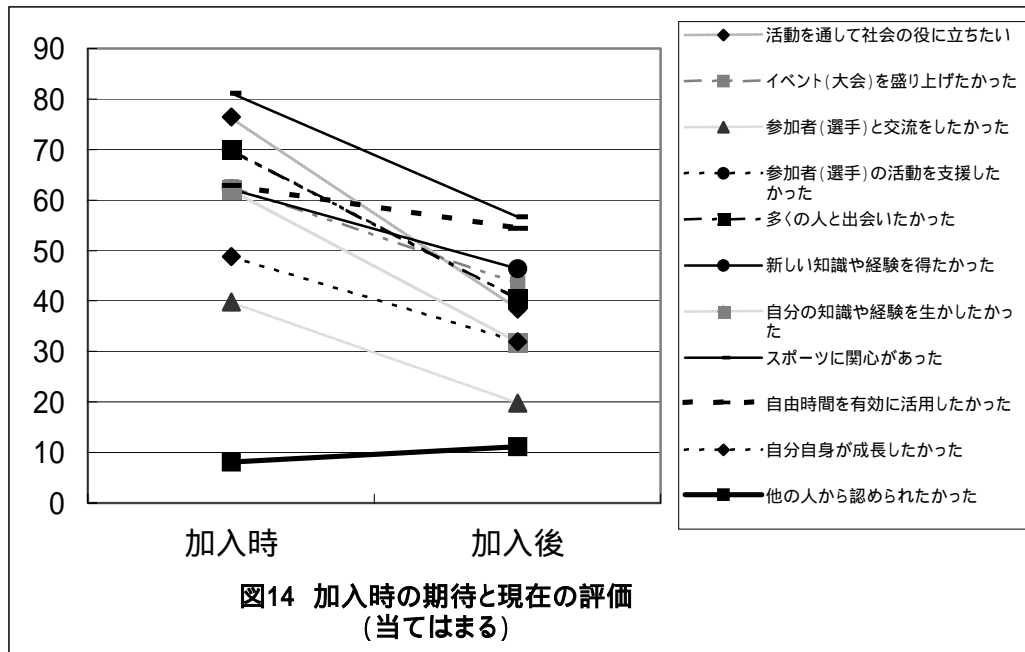
KSVB会員の日常的なボランティア活動の内容は、67.6%の会員が、「運営スタッフ(受付、駐車場、交通整理、給水等の役員)」であり、「競技役員等の補助役員」15.9%、「選手、参加者の介助」7.7%とつづいた。(図13-1)



ボランティア活動の満足度については、「満足している」50.0%、「どちらともいえない」27.5%、「満足していない」は4.9%であった。(図13-2)

(7) 加入時の期待と現在の評価について

「KSVB加入時の期待」と「現在での評価」について「当てはまる」と「非常に当てはまる」と答えた人の合計比率を比較したものである。加入時の期待が現在での評価をわずかに上回ったのは、「他人からの認められたかった」のみで、その他はどの項目も加入当時より減少した。(図14)



KSVBの活動をまとめると次のことがわかった。加入した主なきっかけは「国体開催を契機として」がほとんどであり、その他による加入は非常に少なかった。

KSVBから紹介された年間活動回数は、「1～5回」が全体の8割近くを占めている。また、このことについて全体の約4割近くが「満足している」状況であった。

ボランティア活動を行うことによって生じる金銭的な負担については、全体の約9割近くの会員で生じていることがわかった。また、活動を行うことにより金銭的な負担が生じることについては、約4割近くの会員が「当然である」という回答であった。

KSVBから紹介された活動への参加決定要因については、「日程が空いている」といった会員自身の自由時間との兼ね合いや地理的条件により決定している傾向が見られた。

また、KSVBの活動をしていることに対して、会員全体の約9割近くが家族からの「理解」や「協力」を得ている状況が伺え、また、6割近くの会員が満足していると回答している。

KSVB会員が主に行っている業務内容は、「受付、駐車場、交通整理、給水等の役員」が全体の7割近くを占めている。また、こうした業務内容を行うことについて、5割の会員が満足をしている状況であった。

KSVB加入時の期待と現在の評価を比較したところ、ほとんどの項目で「当てはまる」と回答した会員の数が減少した。増加した項目は「他の人から認められたかった」のみであり、加入時の期待と現実のギャップや、スポーツボランティアに対する認知度の違いによるものなども考えられる。

## 5 活動意識について

### (1) KSVBの活動意識について

KSVB会員がボランティア活動に参加するにあたって、どのようなことに重きをおいているかについては85.2%の会員が「そのイベントの成功に役立つ」という項目について「非常に当てはまる」「当てはまる」と回答している。同様に「イベントそのものを楽しみたい」「自分の視野を広げたい」についても6割以上の会員が「非常に当てはまる」「当てはまる」と回答している。

また、「当日キャンセルすることは仕方ない」という質問に対し、「全くない」「あまりない」と回答した会員が63.7%、「どちらともいえない」18.7%、「当てはまる」「非常に当てはまる」12.6%とややばらつきがみられた。(図15)

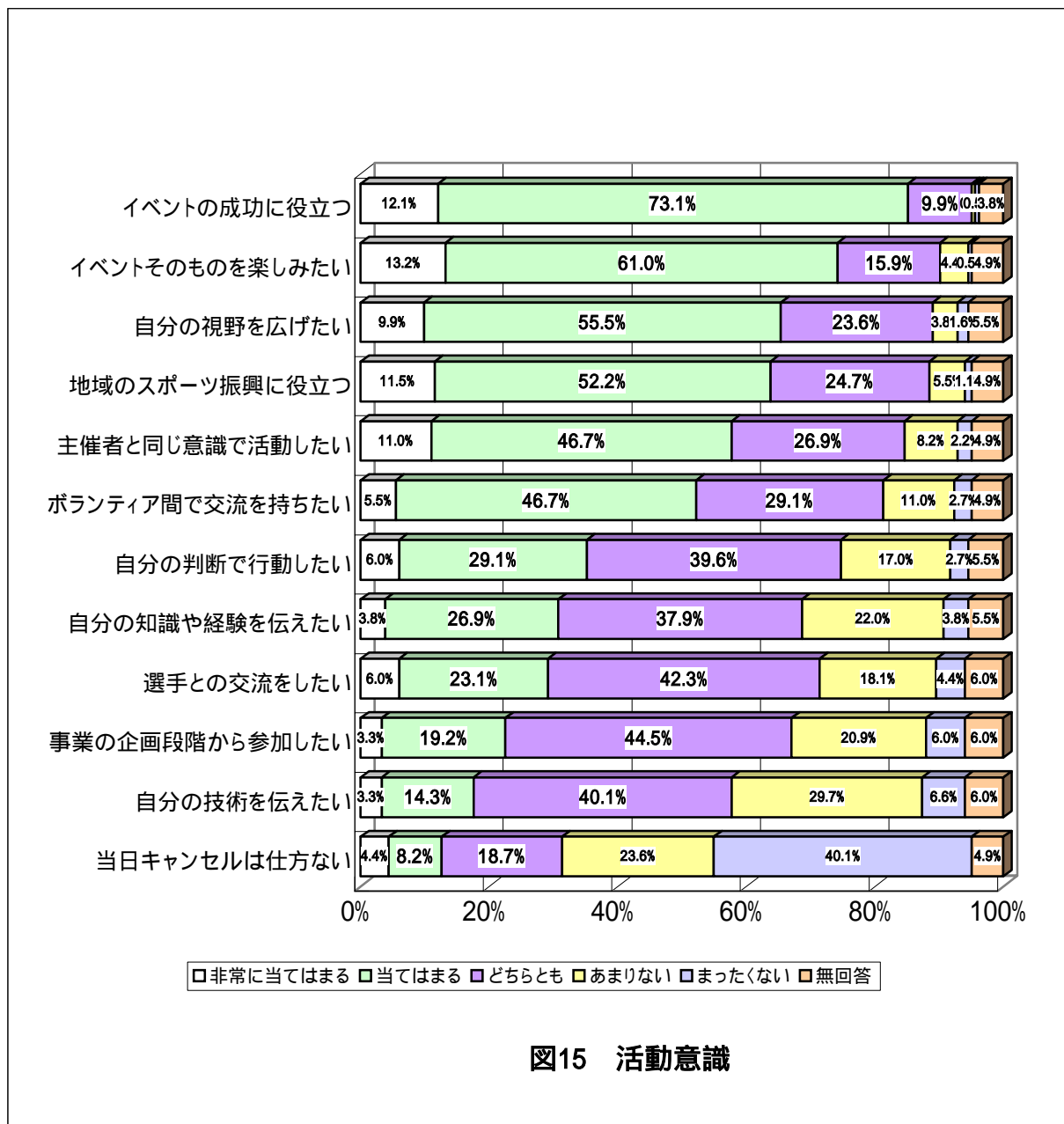


図15 活動意識



(2) KSVB組織に対する考え

KSVB会員がKSVBに対してどのような考えを持っているかについては、「活動がうまくいくように努力する」について82.4%が「非常に当てはまる」「当てはまる」と回答しており、他の回答から抜き出ている。この他に「非常に当てはまる」「当てはまる」が多い回答は「メンバーであることを誇りに思う」「自分自身の成長につながる」「ボランティアとしての役割を十分に果たしている」であった。

また、「全く当てはまらない」「当てはまらない」の多い回答は「脱会を考えている」65.4%、「得るものはほとんどない」50.0%であった。(図16)

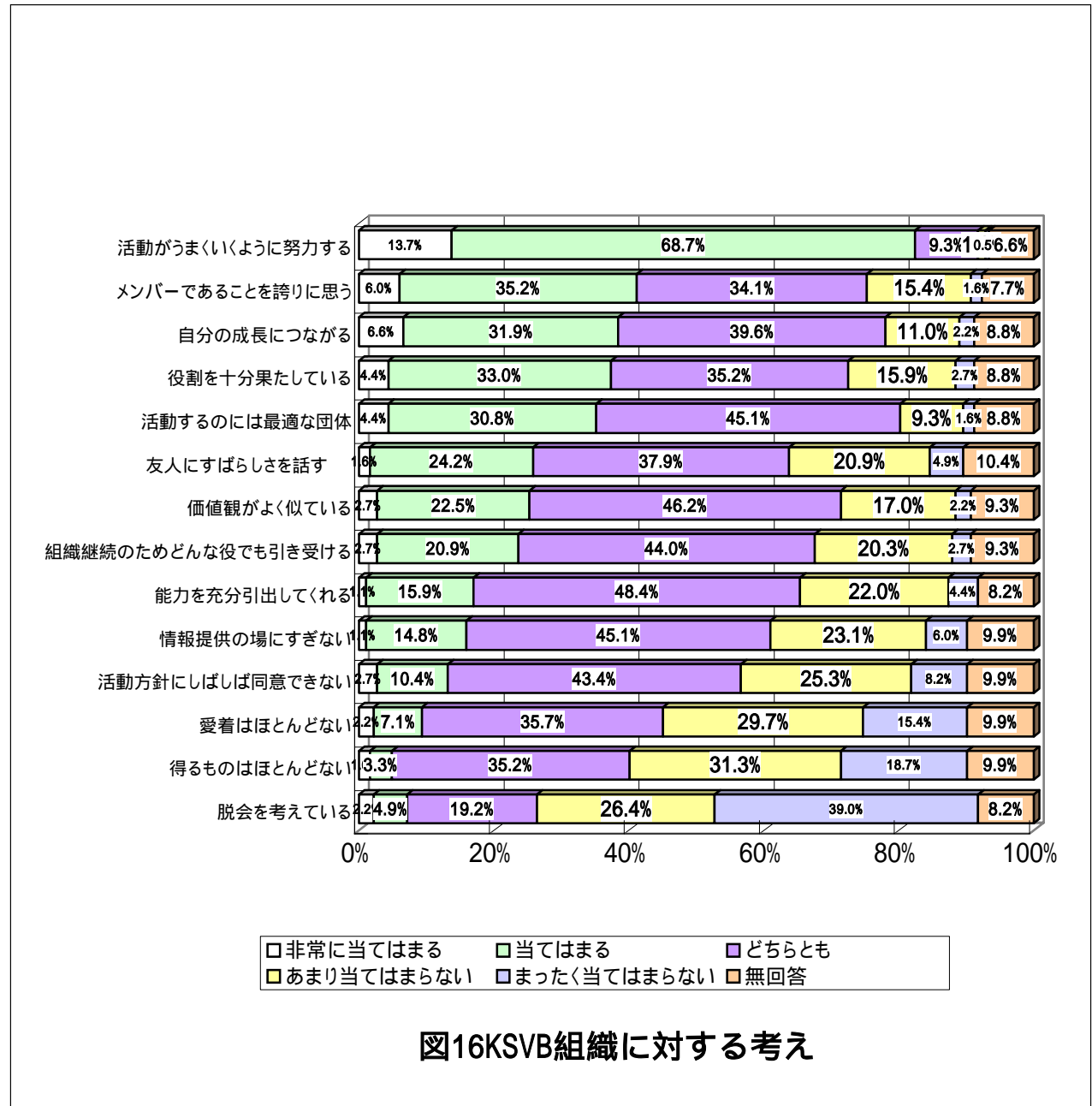


図16 KSVB組織に対する考え

(3) KSVB会員が抱くボランティアイメージについて

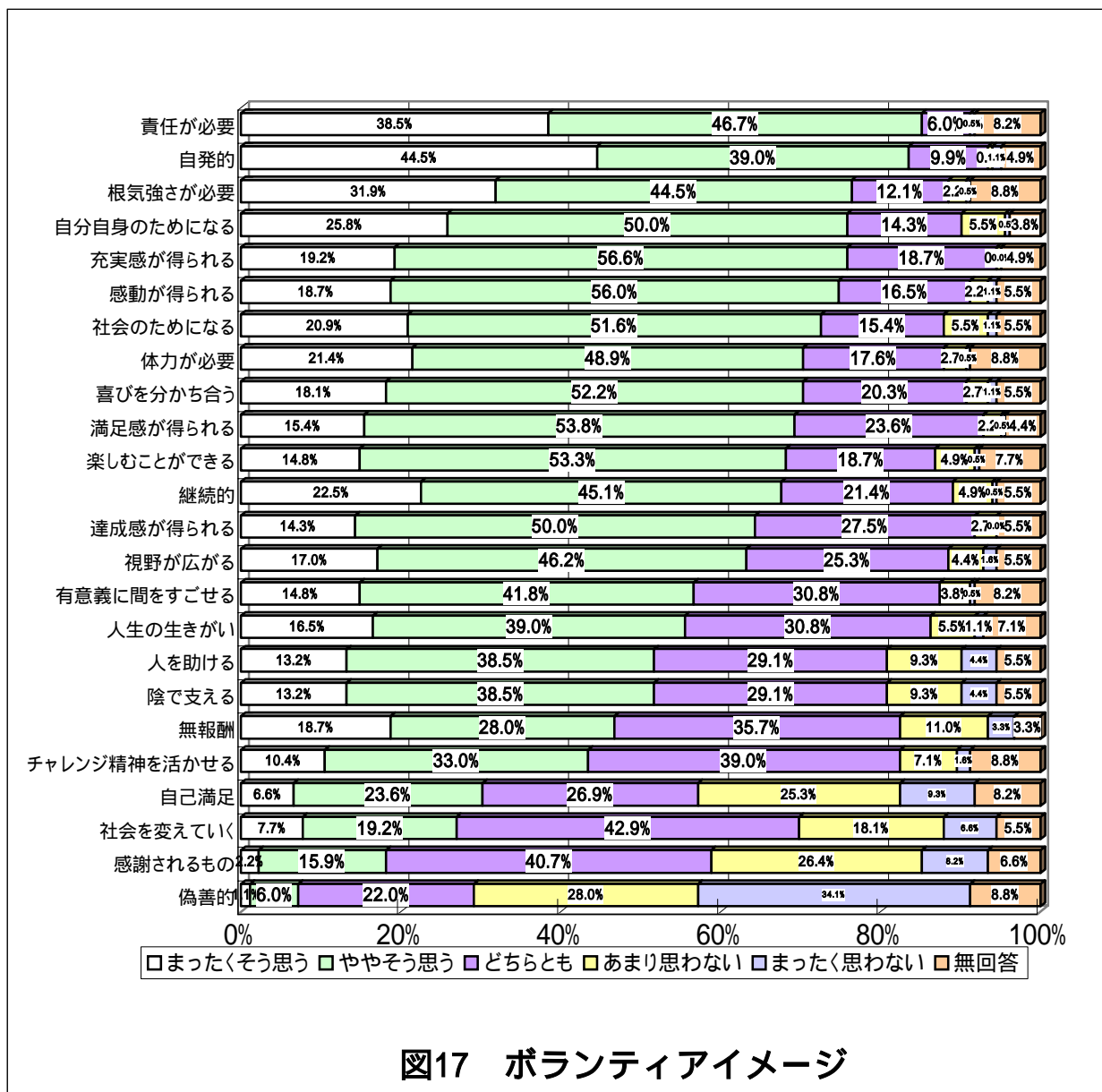


図17 ボランティアイメージ

KSVB会員が抱くボランティアのイメージについて「まったくそう思う」「ややそう思う」の多い項目は、「責任が必要」「自発的」でありが共に全体の8割以上であった。(図17)

更にこれらの項目についてより明確にイメージを持つために、同じような回答の特徴を持つデータをカテゴリーごとにまとめることで、それぞれのもつイメージが浮かび上がるのではないかと考え、5段階で評定された24の項目に対して、KSVB会員のボランティア活動イメージを構成する成分を抽出するため、上記の結果に主成分分析の手法(回転方法はKaiserの正規化を伴うバリマックス法)を用い、イメージ項目の精選を行ったところ、6つの成分が抽出された。(表1)

1つ目の因子は、「満足が得られるもの」、「感動が得られるもの」、「達成感が得られるもの」、「充実感が得られるもの」、「喜びを分かち合うもの」、「視野が広がるもの」の6つのイメージ項目であり、ボランティア活動を行うことによって獲得できると予測される精神的な報酬を意味する項目の集まりであることから、『精神的報酬』因子とした。

2つ目の因子は、「社会を変えていくもの」、「社会のためになるもの」、「継続的なもの」、「自分自身のためになるもの」、「チャレンジ精神を生かせる場」、「人生の生きがいになるもの」で、ボランティア活動と、社会との関係や、生活の中で自分自身を高めていく項目の集まりである

ことから、『生活価値』因子とした。

3つ目は、「体力が必要なもの」、「根気強さが必要なもの」、「責任が必要なもの」、「自発的なもの」の4項目から成立しており、ボランティア活動を行うに際して、自己の中での心構えや、準備、覚悟を意味していることから、『心身的条件』因子とした。

4つ目は、「自分が楽しむことができるもの」、「有意義に時間を過ごせるもの」、「無報酬で行うもの」の3項目から成立しており、自分自身の有意義な過ごし方にもつながる側面を示していることから、『自己価値』因子とした。

5つ目は、「陰で支えるもの」、「(困っている)人を支えるもので」、人を通して社会的に貢献しようとする項目が集合していることから、『社会貢献』因子と理解した。

6つ目は、「偽善的なものである」、「自己満足のために行うものである」、「感謝されるものである」で成立するが、いずれの項目も活動に対してマイナスイメージを示している項目であることから『自己批判』因子とした。

表1 活動イメージ構成要素

|                     | 成分   |      |      |       |      |      |
|---------------------|------|------|------|-------|------|------|
|                     | 1    | 2    | 3    | 4     | 5    | 6    |
| <b>【精神的報酬】</b>      |      |      |      |       |      |      |
| 満足感が得られるものである       | .819 |      |      |       |      |      |
| 感動が得られるものである        | .814 |      |      |       |      |      |
| 達成感が得られるものである       | .742 |      |      |       |      |      |
| 充実感が得られるものである       | .731 |      |      |       |      |      |
| 喜びを分かち合うものである       | .679 |      |      |       |      |      |
| 視野が広がるものである         | .557 |      | .362 |       |      |      |
| <b>【生活価値】</b>       |      |      |      |       |      |      |
| 社会を変えていくものである       |      | .688 |      |       |      |      |
| 社会のためになるものである       |      | .683 |      |       | .324 |      |
| 継続的なものである           |      | .597 | .430 |       |      |      |
| 自分自身のため(学習)になるものである |      | .581 |      |       |      |      |
| チャレンジ精神を生かせる場である    | .397 | .462 |      |       |      |      |
| 人生の生きがいになるものである     | .377 | .420 |      |       |      |      |
| <b>【心身的条件】</b>      |      |      |      |       |      |      |
| 体力が必要なものである         |      |      | .804 |       |      |      |
| 根気強さが必要なものである       |      |      | .746 |       |      |      |
| 責任が必要なものである         |      |      | .707 |       |      |      |
| 自発的なものである           |      | .305 | .343 |       |      |      |
| <b>【自己価値条件】</b>     |      |      |      |       |      |      |
| (自分が)楽しむことができるものである | .325 |      |      | .634  |      |      |
| 有意義に自由時間を過ごせるものである  | .386 |      |      | .596  |      |      |
| 無報酬で行うものである         |      |      |      | .567  | .416 |      |
| <b>【社会貢献】</b>       |      |      |      |       |      |      |
| 陰で支えるものである          |      |      |      |       | .784 |      |
| (困っている)人を支えるものである   |      |      |      |       | .738 |      |
| <b>【自己批判】</b>       |      |      |      |       |      |      |
| 偽善的なものである           |      |      |      |       |      | .780 |
| 自己満足のために行うものである     |      |      |      |       |      | .720 |
| 感謝されるものである          |      |      |      | -.314 |      | .571 |

因子抽出法: 主成分分析 回転法: Kaiser の正規化を伴うバリマックス法

次に、ここに示した6つの因子の実態を把握するため、主成分分析で精選された6つの因子のくくりを利用し、因子ごとの素点の平均値を示した。(表2)

24のイメージ項目は「まったくそう思う」、「ややそう思う」、「どちらとも」、「あまり思わない」、「まったく思わない」の順に5点から1点をそれぞれ与え得点化したため、因子別の平均値も3.0を基準にして、値が高いほど「そう思う」傾向に、値が低いほど「そう思わない」傾向にあると考えることができる。

各因子の中で、最も高い平均値を示している因子は『心身的条件』の4.1935であった。次に『精神的報酬』、『自己価値条件』、『生活価値』、『社会貢献』とつづいている。

これら6項目の中で、唯一平均の3.0を下回ったのは『自己批判』の2.5746であった。KSVB会員自身が考えるスポーツボランティアのイメージは、因子分析の結果より、体力、根気強さ、責任、自発的といった『心身的条件』因子の強い集団であるということがわかった。

KSVBの活動意識についてまとめると次のことがわかった。KSVBの活動意識については「イベントの成功に役立つ」「イベントそのものを楽しみたい」や「自分の視野を広げたい」「主催者と同じ意識で活動したい」といった内発的動機に起因する項目をあげる会員が多かった。このことは主催者や参加者を支えたいという意識と自分自身が楽しみたいという意識の双方の視点を持ち合わせていると考えられることから、相手のために活動することと自分自身の楽しみ、視野の広がりといった自己啓発につながる活動の双方が相乗的に作用し、KSVB活動継続のモチベーションの高揚につながっているのではないかと考える。

KSVB組織に対する考えについては、「活動がうまくいくように努力する」「メンバーであることを誇りに思う」という意識が高い。

また、KSVB会員のスポーツボランティアに対するイメージについては「体力が必要なもの」「根気強さが必要なもの」「責任が必要なもの」「自発的なもの」等の『心身的条件』因子を強く持っていることがわかった。

## 6 KSVBの活動を続けるにあたっての要望

### (1) 主催者への要望

KSVB会員が主催者に望むことについて調査したところ、「もう少し仕事の段取りを立ててほしい」「仕事の内容を明確にしてほしい」などの業務の内容や手順などに関する項目で「非常に当てはまる」「当てはまる」と回答した会員は共に45.6%であった。

また、「全く当てはまらない」「当てはまらない」が多い項目は「活動に感謝してほしい」48.3%、「責任・苦情を伴う箇所に配置してほしくない」が39.5%と回答している。(図18)

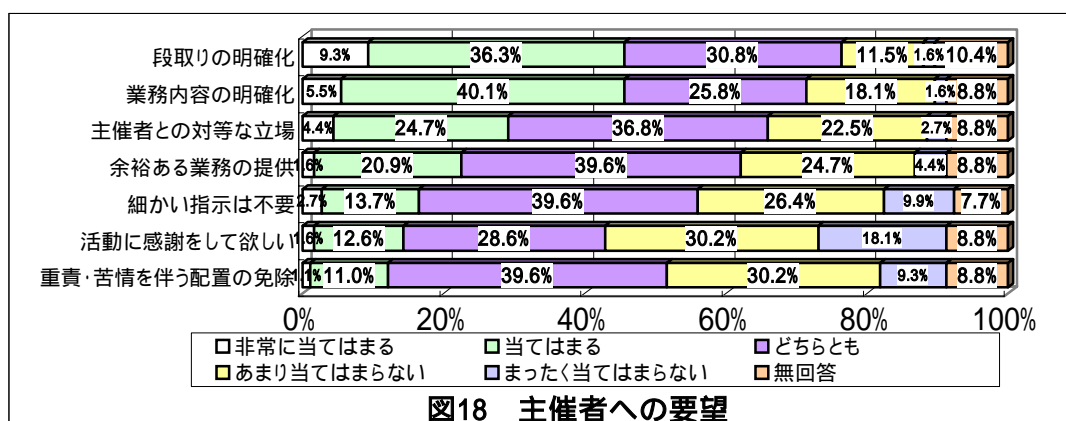
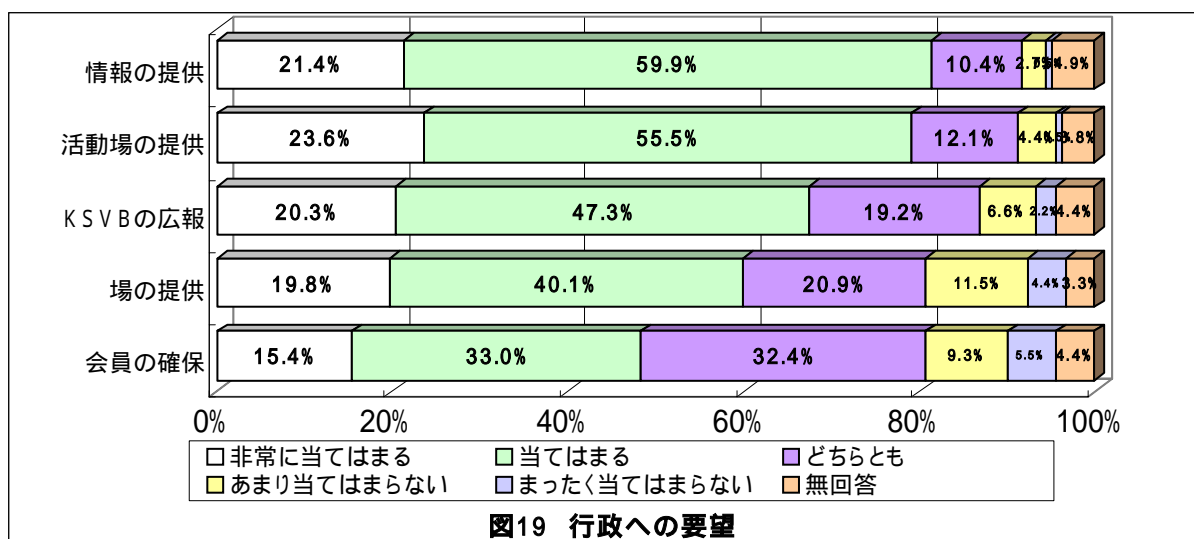


図18 主催者への要望

## (2) 行政への要望

KSVBの活動を続けるにあたって会員が行政に望むことについては「当てはまる」「非常に当てはまる」という回答が多かったのは「情報の提供をしてもらいたい」が81.3%で、続いて「活動の場を提供してもらいたい」が79.1%であった。(図19)



KSVBの活動を続けるにあたっての主催者に望むことについては、仕事を行う上での段取りや、手順や説明についての要望が高かった。

このことより、主催者と、ボランティアの役割分担を明確化し、ボランティアに伝えるべきこと、任せられることをきちんと整理し、確実に伝えるような準備が必要ではないかと考えられる。

また、行政に望むことについては、活動をしたと思って、地域での活動がないこと、自分の都合と合わない等の制約があることから、豊富な情報提供と、活動時期・時間や場所の選択肢の増加を望んでいると考えられる。

### 【まとめ】

かながわスポーツボランティアバンク会員の意識及び活動状況を調査し、以下のことがわかった。

会員の9割近くが50歳代から70歳代であり、そのうち男性が6割以上を占めており、約5割が無職である。また、全体の8割以上が、「国体開催を契機にして」会員になった者であった。

会員の約7割が、KSVB以外でもボランティア活動を行っており、主に行っている活動は、「スポーツ関係のボランティア」であった。また、自分自身もスポーツを行っている会員が約7割であった。

年間の活動日数は、全体の約8割が1～5回で、このことについて約4割が「満足している」状況であったが、約6割近くが「満足していない」「どちらでもない」という回答であり、このことについては、今後KSVBが状況を把握する必要があると考える。

約9割近くの会員が、ボランティア活動に伴い金銭的な負担をしている。このことについては、約4割が「当然である」という回答をし、約5割が「どちらともいえない」約1割が「疑問に思う」と回答している。

KSVBの活動をしていることに対して、会員全体の約9割が家族からの「理解」や「協力」を得ており、また、約6割の会員がそのことについて「満足している」と回答している。

KSVB会員が主に行っている業務内容は、「受付、駐車場、交通整理、給水等の役員」であり、全体の約7割近くを占めている。また、こうした業務内容を行うことについて、約5割の会員が「満足している」と回答している。

ボランティア活動に対するKSVB加入時の期待と現在の評価を比較したところ、現在の評価

が加入時の期待を上回ったのは「他の人から認められたかった」のみであり、このことから加入時の期待と現在の活動とにギャップがあることが分かった。また、このことは会員が当初持っていたスポーツボランティアに対する認知度の違いに起因することも考えられる。

活動時に主催者に望むことについては、「仕事の段取りについて」や「仕事内容の曖昧な部分について」の要望であった。これについては、スポーツボランティア自身が豊富な経験の中から持ち備えたノウハウを活かし、アドバイスなどができるように主催者側が体制をつくるのが今後のボランティア活動を充実させ、継続していくために必要になってくるのではないかと考える。

K S V Bの活動意識については、「イベントの成功に役立つ」「イベントそのものを楽しみたい」や「自分の視野を広げたい」「主催者と同じ意識で活動したい」といった内発的動機に起因する項目をあげる会員が多かった。このことは、相手のために活動することと、自分自身の楽しみ、視野の広がりといった自己啓発につながる活動をするとの双方が相乗的に作用し、K S V B活動継続のモチベーションの高揚につながっているのではないかとと思われる。

K S V B組織に対する考えについては、「活動がうまくいくように努力する」「メンバーであることを誇りに思う」という意識が高かった。

また、K S V B会員のスポーツボランティアに対するイメージについては「体力が必要なもの」「根気強さが必要なもの」「責任が必要なもの」「自発的なもの」等の『心身的条件』因子を強く持っていることが分かった。

K S V B会員が行政に望むことについては、「情報の提供」や「活動場所の提供」「K S V Bの広報」である。行政側は、啓発活動の実施や、情報提供・資質向上につながる研修会を今以上に企画することが必要であろう。

ひいてはこのことが、ボランティアの底辺拡大やK S V Bの会員確保につながると考える。

全体を通して質問に「どちらでもない」という回答が多く見られた。このことは、設問自体に問題があるということも考えられるが、回答できない理由もあるのではないかと推測される部分もある。今後ボランティア活動を推進していく立場と支える立場の両面から、考えていく必要があるのではないかと考える。

## 【おわりに】

スポーツボランティアとは、参加者や主催者への活動の支援をとおして、自分自身の生活の質を高めていくものであると捉えた時、スポーツボランティアに携わる人は、スポーツに関心があることはもちろんのこと、時間的にも余裕があり、自由時間を有効かつ社会の役に立つために使いたいと考えている人、さらに活動を通して自分自身のライフスタイルも豊かにしようとする人ではないかと考えることができる。

しかし、スポーツボランティアは、災害時のボランティア活動のように緊急性があり、困っている人などに対し、自分自身の行為が目前で成果として実感できるものと異なり、多くの人と出会うことや選手や参加者と同じ感動を得たいなど、人と人との関わりの中で生み出され、お互いのつながりを追求し、自分自身の生活の質を豊かにしていくものではないかと考える。

また、ボランティア活動時には主催者と対等な立場で、あるいはそれ以上の立場で判断をしなければいけない場面に遭遇することもあるはずである。したがって、今後はボランティアの資質をより高めていくことが重要であり、ボランティア自身のプロ意識も必要になってくると考えられる。このことは、本調査の結果からも伺うことができ、こうした意識を主催者側も理解し、単なる手伝いとしての認識から一歩踏み出し、企画や計画の段階から関わりを持つことや、ある程度の判断を委ねる等も考慮に入れた活用方策を提案していく時期になってきたのかもしれない。また、ボランティア自身が企画した催しの開催にスポーツ関係者がサポートしていくといった新たな試みも必要ではないだろうか。

今回の調査での、ボランティアの活動場所についての結果は、地元地域での活動を望んでいる会員が多いことから、生涯スポーツの推進をしていく上で重要な鍵になるコミュニティづくりと合致するのではないかと考えられ、正に両者がコラボレートしながら「スポーツのあるまち・くらしづくり」を推進していくことができれば、豊かなスポーツ社会の実現に一歩近づくことができるのでは



ないかと考える。

地域にはスポーツを行いたい人や支えたい人が多くいるはずである。その人たちがそれぞれに“あったらいいなこんな場所・こんなこと”を創造し、その実現に向け行動することが、今後のスポーツ振興に必要であろう。

その為には行政を始めとした、ボランティア活用団体が、ボランティアの特性や要望に対して、常に耳を傾けていくこと、またボランティア自身も自信と責任を持ち、双方の協力のもとにスポーツ振興を進められる体制づくりを進めていく必要があるのではないかと考える。

#### 《謝辞》

最後にこの研究をすすめるにあたり、多大なご協力とご助言をいただいた東海大学体育学部 新出昌明助教授に心から感謝いたします。

また、ご多忙中にもかかわらず、今回の調査にご協力をいただいたK S V B会員の皆様に感謝の意を表します。

#### 《引用・参考文献》

- 1) 文部省：「スポーツにおけるボランティア活動の実態等に関する調査研究報告書」，2000
- 2) 新出昌明：「長野オリンピックにおけるボランティア活動が生活の充実に及ぼす影響」平成11年3月
- 3) 日本スポーツボランティア学会：「スポーツボランティア学研究」，2005
- 4) 松本耕二：「スポーツ・ボランティアの類型化に関する研究 - 障害者スポーツイベントのボランティアに着目して - 」
- 5) 松本耕二、北村尚浩、國本明德、仲野隆士；「スポーツ・ボランティアの参加動機、組織コミットメントと継続意欲 - 地域の障害者スポーツを支えるボランティア - 」，2004
- 6) 松本耕二、北村尚浩、國本明德、仲野隆士；「障害者スポーツイベントにおけるボランティアの参加動機 - 性別、年代別、活動経験別による比較 - 」，2003
- 7) 笹川スポーツ財団：「SSFスポーツボランティアスポーツ白書2010」，2001
- 8) 笹川スポーツ財団：「スポーツボランティアデータブック」，2003
- 9) 新出昌明：「かながわ・ゆめ国体のボランティア活動に関する調査報告書」，平成12年3月
- 10) 岡本栄一：「ボランティアのすすめ」ミネルバ社，2005,4
- 11) 小澤亘：「ボランティアの文化社会学」世界思想社，2001,9
- 12) 新出昌明、齋藤隆志、川崎登志喜；「長野オリンピックにおけるボランティアのイメージ分析 - スポーツ経営学的視点から - 」，1998